

祇園小学校 校長だより（第76号） 令和2年度第17号 令和2年12月1日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

挨拶は「心と心で会話する」ための言葉

曹洞宗徳雄山建功寺住職で庭園デザイナーでもある枡野俊明（ますの しゅんみょう）さんの著書、禅「心の大そうじ」（2011年、三笠書房）から引用します。

「挨拶」が禅語だということをご存じですか。「挨」も「拶」も押し合うという意味で、元来、禅僧がお互いに押し問答をして相手の悟りをためす（悟りの程度を知る）ことを挨拶といったのです。そこから手紙のやりとり、人との応答、返礼といった意味で使われ、現在では出会いや別れの際に、親愛の情や儀礼の心を言葉で述べるものになっています。

もともとの挨拶は相手にはたらきかけて、その心の状態を知ろうとするものだったのですが、これは現在の挨拶にも共通しているといえます。「おはようございます」と声をかけて、相手から返ってくる挨拶の調子で、「元気があるな」とか「昨日、何かあったのかな」とか、なんとなく心の状態がわかる。また、相手にもこちらの心が伝わっていきます。

明るく元気な声で挨拶を交わせば、心と心でいいエネルギー交換ができます。そして、お互いに気持ちよく一日のスタートが切れるはず。ムニャムニャと何をいっているかわらないような挨拶はやめて、スッキリと一日を過ごしましょう。

前月、校門の看板に、「あいさつで 笑顔を増やそう 祇園の輪」という言葉を掲げました。本校児童が考えた言葉です。かわいいイラストも交えて描いてありますので、是非、ご覧ください。新型コロナウイルス感染防止のために、近い距離では大きな声が出せないのも、会釈（おじぎ）により、あいさつの気持ちを伝えるよう指導もしています。マスクの下には、おじぎをした心の中には、きっと笑顔が広がっていることと思います。大人も子どもも、あいさつによる「心と心の会話」を広げていきたいものです。

祇園歴史の旅（その76）「16周年の祇園小とその時代」

祇園小学校沿革史によると、平成29年7月4日台風接近に伴う休校、この年度にトイレの一部洋式化工事とあります。今年は大雨や台風接近による臨時休校をいたしました。この年も台風に悩まされた年でした。

また、インターネット記事によると、当時の主な出来事は次のとおりです。平成29年6月26日将棋の藤井四段がデビューから無敗のまま公式戦29連勝の新記録、9月9日桐生祥秀陸上100mで9秒98日本選手初の9秒台、平成30年1月8日晴れ着販売などを行う会社「はれのひ」が突然休業新成人に振り袖届かず、2月9日ピョンチャン冬季五輪開幕、3月9日同パラリンピック開幕。

今回は、「17周年の祇園小とその時代」と題して、17周年の祇園小学校の出来事や平成30年4月～31年3月までの日本内外の主な出来事をご紹介します…。